

めでいかすとる
Médicastre



「 秋の海 」

市もの忘れ相談医研修会

日時：平成26年8月28日(木) 18：40～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

『 日常診療に役立つ認知症の実践医療と地域包括ケア 』

群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学講座
教授 山口 晴保 先生

- * **地域包括ケアシステム** 住まい、医療、介護、予防、生活支援を住み慣れた地域の中で
- * **今後の認知症施策の方向性について (6.18)**
5カ年計画：オレンジプラン
- * **早期集中支援チーム** 保健師と作業療法士などが訪問
前橋市で実践 かかりつけ医と連携して訪問し、本人と家族を支援 地域包括に依頼を
- * **認知症疾患医療センター** 県内10カ所 年間3,000例の鑑別診断
- * **認知症でも穏やかな在宅生活の継続を**
本人：最低限のADL（食事摂取・排泄が自立している）→生活力を高める医療とケア
攻撃性・興奮性のBPSDがない→適切な医療とケア&家族教育
昼夜逆転や夜間せん妄がない→適切な医療とケア
無断外出がコントロールできている（庭までなど）→適切な医療とケア
家族：一人で背負わないことを理解している
相談者がいる・レスパイトケアがある
- * **認知症の定義** DSM-5 認知機能が低下し、生活管理能力が低下して独居が困難に
- * **認知症初期症状11項目質問票SED-11Q**
本人〈家族→認知症 本人〉家族→うつ
 - ・同じ事を何回も話したり、尋ねたりする
 - ・出来事の前後関係がわからなくなった
 - ・服装など身の回りに無頓着になった
 - ・水道栓やドアを閉め忘れてたり、後かたづけがきちんとできなくなった
 - ・同時に二つの作業を行うと、一つを忘れる
 - ・薬を管理してきちんと内服することができなくなった
 - ・以前はてきぱきできた家事や作業に手間取るようになった
 - ・計画を立てられなくなった
 - ・複雑な話を理解できない
 - ・興味が薄れ、意欲がなくなり、趣味活動な
- どを止めてしまった
- ・前よりも怒りっぽくなったり、疑い深くなった
- 判定：介護者が評価して3項目以上にチェックが付くと認知症が疑われる。
そのほかに、妄想や幻覚があれば受診を奨める
- * **メタ認知の障害：病識のなさ、自己モニタリングできない** これが本質
- * **振り向き徴候や取り繕いに気づく**
- * **山口市キツネ・ハト模倣テスト** 簡単な手指模倣（頭頂葉機能）が早期から低下
多施設共同研究 ADとDLBでエラーパターンが異なる
- * **視点取得＝客観視** ADでは、早期から視点取得が困難
 - ・視点取得ができないと、①自己の客観視不能＝病識を持ってない、②他者の意図・心の内をくみ取る＝心の理論（5歳までに発達）が困難
 - ・自己モニタリングできない認知症の人のケアでは、介護者が本人の視点に立って考えること（本人の見えている世界を理解）が必須 例：同じことを何度も訊く 無い→盗られた
- * **山口表情作成課題** 目隠しをしないで表情を作る（福笑い） 認知症で低下
- * **環境調整：視覚認知低下への対応**
- * **認知テスト** HDS-Rでわかること
- * **意味性認知症** 側頭葉型ピック病 言葉の意味、物の意味がわからない
（左）側頭葉には国語辞典や百科事典がしまわれている マイルール：時刻表的生活
- * **レビー小体型認知症の特徴：症状の変動、パーキンソン症状、リアルな幻視、RBDリアルな幻視** 見えたものに対処する行動がある 棒で追い払うなど
- パレイドリア：幻視の誘発** パンジーの中央

部に顔 など

レム睡眠行動障害 夢を見て 夜間の大声、動作(蹴る 逃げる)

自律神経症状 起立性低血圧や便秘 MIBG 心筋シンチで確定

* 行動障害型前頭側頭型認知症の臨床症状の特徴 若年性に多い

病識の欠如 感情・情動変化 脱抑制・反社会的行動 自発性の低下 無関心 常同行動 食行動異常 被影響性の亢進 転導性の亢進

* 山口式病型分類質問票 どのタイプが疑われるか、見当をつけられる

* 脳のアセチルコリン系 前脳基底部マイネルト核など限られた部位で産生、全脳に配達される

* アルツハイマー病の治療薬 アリセプト 脳内のアセチルコリン濃度を高め認知機能を向上 覚醒レベルが上がる→行動障害(多動・徘徊など)が強くなることも

・元気系、覚醒レベルが上昇、記憶学習↑ 効き過ぎ症状: 暴言・暴行、常時徘徊、抵抗

* 抗認知症薬の特徴 ドネペジルは易怒性、ガラントミンは嘔気・嘔吐、リバスチグミンは皮膚炎

* メマリー(メマンチン)はBPSDの強い例で著効することが多い 過量で活動性低下

* 正常圧水頭症 MRIでDESH

三大症状 * ボーッとする認知機能障害(鈍い)

* 歩行障害: すり足、小刻み、開脚 パーキンソン病と誤診されやすい

* 尿失禁が軽～中度認知症で出現 試験タック(髄液30ml排液)→歩行に改善がみられやすい→改善があればシャント手術 歩行は改善しやすいが、認知機能は改善しにくい 発症後期間が長いと改善し難い

* (作業) 回想法 古い道具や物品の使用(認知症でも古い記憶は比較的維持されている) 主客逆転 役割→生き甲斐 自分史の再認識(ライフレビュー)

効果: 見当識の獲得や情動の安定、前向きに生きる意欲

* 役割を持つことで進行遅延 ボランティアとしてデイサービス利用

* せん妄にはトラゾドン(デジレル・レスリン)少量が有効

* うつにはSSRIセルトラリン(ジェイゾロフト)、不穏にはミルタザピン(リフレックス)

* 眠剤は非ベンゾチアゼピン系のゾルピデム、ゾピクロン、エスゾピクロン

* 嚥下障害にはサブスタンスPを増やす薬剤: ドパミン製剤、ACE阻害薬、半夏厚朴湯

* EBNとNBM: どちらも大切 患者一人ひとりの人生物語を大切に

* 家族が患者を褒めると 患者は嬉しくなる ほめた家族も嬉しくなる

* リハで毎日褒めることの効果 歩行スピードが有意に向上

* 報酬系 ドパミン神経系 1) 予期せぬ報酬(ナチュラル) 2) 報酬を期待させる刺激

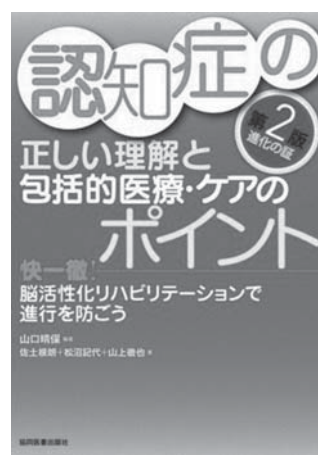
* ドパミンとやる気 側坐核でドパミンを働かなくすると、大変な作業はやらなくなる ドパミンは意欲の根源

* スキンシップでドパミン放出 背中をさすると気持ちよい

* クローズアップ現代 私を叱らないで 認知症の人は、不安を抱え、叱られたと思ひ込む→褒める

* 認知症の診療は楽しい 患者と介護者を笑顔で褒めよう 患者は介護者から話を聴くのが楽しい 良くなって在宅生活を継続してくれるのが楽しい

コメディカルスタッフを育てる



参考図書

認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイントー快一徹! 脳活性化リハビリテーションで進行を防ごう。2版 山口晴保編著 協同医書出版、2010、3,465円(税込み)

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時：平成26年8月29日(金) 19:00～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

『 痛みのない生涯を送るために －モルヒネと上手につき合う－ 』

三友堂病院 緩和ケア科
科長 加藤 佳子 先生

1986年、世界保健機関（WHO）は、世界中のがん患者が痛みから解放されることを目指して、“WHO方式癌疼痛治療法（以下WHO方式）”を紹介しました。その中で“がんの痛みは治療できる症状であり、治療すべき症状である”と明言しました。患者さんのがんの痛みから解放するためには“痛みの訴えを信じ”ガイドラインに則って痛みの治療を行うことが重要です。WHO方式では、“モルヒネの適切な投与量とは痛みが消える量である”と明記しています。即効性のモルヒネを使った場合、4時間ごとの投与量が5～1000mg/回であること、開始時の標準投与量を10～15mg/回とすると記してあります。しかしこれを誠実に実行する医師が少なく、患者さんの痛みから解放は進みません。また“三段階除痛ラダー”に対する誤解が広がっています。“三段階除痛ラダー”とは鎮痛薬を“痛みの強さによって三段階に分類した”ものです。痛みが強くないときは非オピオイド（アスピリンやアセトアミノフェンなど）を、中等度から高度の痛みにはオピオイドを用いるとしています。まず第一段階の薬を使い、効かなければオピオイドに変更するという考えは「誤解」です。患者さんの痛みの訴えから、“痛みの強さ”を診断することが重要です。夜眠れない痛みや、日常生活を脅かす痛みは中等度以上の痛みです。すぐに第三段階基本薬のモルヒネを使って、早く痛みから解放することが必要です。

WHO方式では、モルヒネを“中等度以上の痛みの基本治療薬”と位置づけました。それが“モルヒネはがんの末期にしか使用できない薬”という誤解も生まれました。痛いのは“がんの末期”だけではありません。がんの初期でも中期でも、またがんでなくとも、強い痛みが襲うことがあります。高齢になると、帯状疱疹や脊椎・関節の痛み（ロコモティブシンドローム）に苦しむ患者さんが多くなります。慢性痛の多くは、患者さんが訴える急性期の痛みを、医療者が過小評価して十分な治療を行わなかった結果です。1993年、WHOは「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケアががん患者の生命へのよき支援のために一」を発刊し、“患者には痛みをコントロールするために、十分な鎮痛薬を要求する権利があり、医師にはそれを投与する義務がある”と宣言しました。

モルヒネの内服は、患者さんが自分自身で行える負担の少ない治療法です。入院も必要なく、通院も月1回程度ですむ高齢者にも受け入れやすい治療法です。苦痛のない穏やかな生涯を全うする/させるために、モルヒネについて正しく理解し上手にを使って、早く痛みをコントロールすることが重要です。

鶴岡准看護学院学校説明会

日時：平成26年8月6日(水) 10：00～

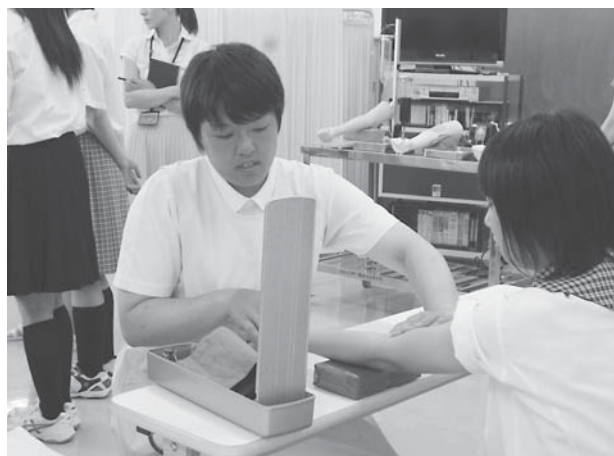
場所：鶴岡准看護学院

設立から56年目を迎えた鶴岡准看護学院では、本学院初となる学校説明会を開催しました。歴史と伝統ある本学院の特徴を知り、看護への興味・関心を深める機会とすること、学内実習の見学・体験や在校生との交流などを通し、本学院志願者の増加を目指すことを目的として開催しました。

説明会には、鶴岡市だけでなく最上地域からも高校生・保護者の参加があり、当日は高校生24名（3年生22名、1年生2名）、保護者4名、教諭1名の計29名の参加がありました。説明会の前半は、学校の概要やカリキュラム、入学試験などについて教務課係長より説明があり、さらに、スライドを用いて在校生の学校生活の紹介を行いました。熱心に耳を傾けている参加者が多く、関心の高さが伺えました。後半は、学院内の施設見学と学内実習の見学・体験を行いました。学内実習では、6グループに分かれて在校生の指導のもと、バイタルサイン測定と立ち上がり動作、移乗動作の見学・体験を行いました。参加した高校生は、在校生の指導を受けながら看護師役・患者役を体験しましたが、笑顔を見せながら楽しく参加していました。時折、高校生や保護者の方が在校生に学校生活や実習について質問する場面もあり、グループ内で和やかに交流する様子もみられました。質問に丁寧に答え、高校生に指導している在校生の姿もみることができ、先輩としての成長を感じられた時間でもありました。

学校説明会終了後に行なったアンケートでは、「先輩が明るく優しく接していただき嬉しかった」「カリキュラムの説明などとても分かりやすく、今日来て良かった」「在学中の学生の方にお話を聞けて良かった」「見学や体験がとても楽しかった」など好印象の感想ばかりでした。学校説明会は、鶴岡准看護学院について知って頂く貴重な機会になるため、今後も充実した内容の開催に努めていきたいと思っております。

教務課 金丸 一恵



YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

「晩夏 ドクターアドバイス収録顛末記」

鶴岡市立荘内病院 院長 三科 武

ずっとお断りしてきたラジオ出演ですが、今回は石原先生の推薦が強力で、YBCからの予定案内が医師会の案内より先に届くという事態が発生し、ついに観念し7月11日に山形市のYBCまで行ってきました。

大木アナ、加藤ディレクター、私の3人でまず打ち合わせ。院長就任以来手術はほとんど参加しておらず、外科医としての頭脳は退化一方、手術手技も古びてしまいました。そのため臨床のお話はできないと考え、タイトルは“病院を上手に利用してください”にしました。あらかじめのfaxでは救急受診、病床区分、地域医療連携、少子高齢化の問題など挙げておきましたが、あまりにも広い分野で抽象的な話題となり、相手をしてくれた大木さんも困ったことと思います。現在の病院の立場と考え方についてももう少し市民の皆さんに知っていただけたら良いと思うことを話したつもりです。大木さんもよく調べられていて、いい質問と話の方向を正していただき感謝しております。このテーマとは別に、自分の個人的な話題も毎日少々入れて話しました。なんとと言っても声の質が悪く、くぐもって話す事と、あがってしまい理論的な話にならなくあせりました。アナウンサーの方の声の質が良い事に感嘆し、発声法を習いたくなりました。行く前には石原先生から2時間くらいで終わるから、と言われておりましたがたっぷり3時間以上かかり、終わったのは7時前。帰りの車できれいな夕日に向かう中、最終日にリクエストした“晩夏”を口ずさみながら運転してきました。まさに祭りの後のような虚脱感とともに。

「サマータイム」

さくまクリニック 佐久間 豊明

収録は7月6日日曜日にやってきました。

山形市のスタジオまで行き5日分を1日で収録しました。

ディレクターの加藤研さんとアナウンサーの佐藤孝子さんとまず、1時間ほど雑談で和やかな感じでしたが、いざ本番になると、今回のテーマ「带状疱疹と带状疱疹後神経痛」の話はいいのですが、プライベートの話となると妙に緊張して、うまく話せない事もありまして、そこはちょっとカットしたり、ストップして初めからやり直しをしたりで、4時間程かかり結構、疲れました。

選択曲はジャニス・ジョップリンの「サマータイム」、カルロス・サンタナの「哀愁のヨーロッパ」、イーグルスの「ホテルカリフォルニア」、オージェイスの「裏切り者のテーマ」、サザンオールスターズの「夏をあきらめて」

初日の課題は、山形（庄内）の素晴らしき庄内の旬の食材の話をしました。

2日目の課題が「座右の銘」で…親の恩は子に返せ… 私の場合、親はもう他界していませんが、子供には、自分が親にしてもらったことを伝え、教え、返していけば良いかなと話しました。

3日目の課題は「趣味」 愛犬が4月に亡く



なり寂しくなりましたが、これからはドライブをしたり旅行に出かけたりしたいなーと話をしました。

4日目は、70～80年代のソウルミュージックの話で昔の歪んだレコードやレコード針の跳ねた音でアナログの音の懐かしかった事などの話。

5日目は、鶴岡には総合病院が一つしか無く、そこで働いている先生の業務は非常に大変であり、そのため当鶴岡地区医師会の会員で平日夜間診療所「にこふる」で夜7:00～9:30まで。休日・祭日は休日夜間診療所「にこふる」は朝の9:00～夜の9:00まで診察しているのでそこを利用しましょう。またちょっと不安な感じや急な病気に対して子供救急電話相談は#8000、大人の救急電話相談は#8500、夜7:00～10:00までやっていますので携帯電話に登録しておいて利用しましょうという内容で締めくりました。

「悪玉と善玉」

藤吉内科医院 藤吉 令

大学の後輩である伊藤茂彦先生から「ラジオにでてみませんか？」とお話があり、かわいい後輩からの依頼なので引き受けてみたものの、何を話していいか…同業者であればわかり得ることも、素人の方に説明するとなるとどこまでかみ砕いて話をしたらよいか、出演する前に悩んでしまいました。ラジオの為目で見えることはできないので、わかりやすい言葉且つせっかくやるのですから何か一つでも覚えて頂こうと思い、私の専門であるコレステロールについて話すことにしました。

散歩以外に外出することのほとんどない私にとって山形市は非常に都会にみえ、なんとビルディングの多いことか…車で高速に乗り向かいましたが、途中で道を間違えギリギリにラジオ局に到着。スタジオに案内され、テレビでよく



拝見するアナウンサーの門田和弘さんにお逢いし10分ほどの打合せ後収録となりました。

コレステロールといえばLDLコレステロールとHDLコレステロールですが、やはりリスナーの方の理解が難しいということで、悪玉コレステロール・善玉コレステロールで説明することになり、これを覚えて頂くポイントとしました（鈍感である私でも前日は原稿作りで久々に徹夜しました）。できるだけ原稿を見ないで話す予定でしたが、マイクを前にするとさすがに頭が真っ白になりました。また、ディレクターさんには「原稿用紙のめくる音はできるだけしないように」との指示もあり、益々緊張するといった次第です。収録が進むにつれて慣れてきたのか、自然とアドリブが出てしまいやり直すこともありました。収録は6月中旬ワールドカップで盛り上がっている頃であった為、「今一番行きたい場所はどこですか？」の質問に、「もちろんサッカー観戦でブラジルです！」と…しかし放送日は8月11日からで、ワールドカップは終了しており、もちろん再度収録することとなりました。

なんとか収録を終えましたが、テレビでバラエティー番組を見るのとは違い、真面目で時間に忠実に進行されており、言葉に一つ一つに責任をもってリスナーの方に伝える姿勢に感動した時間を過ごすことができ良い経験だったと思います。

九州旅行 ～おもに城廻り～

奥山皮フ科 奥山 泰裕

私事ではありますが、昨年末、6年ぶりに三人目の子供として長女が誕生し、子育てに仕事にと慌ただしい日々を送らせていただいております。元来、出不精で外食や外出の機会は少なかつたのですが、家族に乳児が加わり、この半年は更に外に出ることがなくなってしまいました。こちらに寄稿できるような最近の出来事があまりないため、以前に九州を旅行した時のことを書かせていただこうと思います。

今から約5年前、東京の大学病院に勤務していた時に、5日間のまとまった休みが手に入った時のことです。さて何をして過ごそうと家族と話し、当時の政治の弊害(?)で高速料金が土日・祝日1,000円になっていたこともあり、今まで行ったことのない九州に車で行こうという事になりました。目的もなくぶらぶら行く旅行もいいのですが、せっかく行くのだから何か目的を持って行こうと考え、この前の年たまたま寄った新潟県の新発田城跡で勧められた日本100名城巡りをする事にしました。日本100名城というのは財団法人日本城郭協会が決めた、各県1～4カ所ずつ配置された城址のことです。当時は縄張りがどうか石垣の組み方が素晴らしい等も全くわかりませんでした(正直今もよくわかりませんが…)ととりあえず城を見て、満足しており、長男も城址公園のような広いところで走り回るのが好きだったので軽い気持ちで目的を決めたのです。

出発は金曜日の仕事が終了し帰宅した直後でした。金曜日の夜でしたので首都高速も東名高速もそれほど混んでおらず、私以外は皆後ろの座席で寝ていました。そんな中で、休憩を2回ほどとって、居眠りもせず運転し、朝方には山口に着きました。昼に運転できれば瀬戸内海や新緑などの景色、SAの各所の名物を楽しむことができたのですが、ひたすら真っ暗な夜道でしたので、今から思えば残念だったと思うほかなく、とにもかくにも関門橋を眺めながら朝の軽食を食べて九州に入ることになりました。



九州に100名城は全部で13カ所。効率よく回るために、細かい日程やホテルは決めずに流して行くことにし、まずは佐賀に向かいました。佐賀城は鯨の門と石垣とお堀の一部が残っており、あとは広い敷地に歴史館があるくらいです。ゆっくり眺めたい気持ちをよそに、子供が飽きてしまい、次の吉野ヶ里遺跡に移動しました。厳密には城ではないと思うのですが、弥生時代の集落跡で柵ややぐら、濠があることから城郭のはしりとされ指定されています。弥生人に扮装した職員さんが、機織りをしていたり、ツボを練ったりしているのを眺めたり、竪穴住居・高床住居の出入りもできます。とても広い敷地だったため、この旅行で一番子供たちが自由に走り回れた場所となりました。一日目に平戸城まで回るつもりが、ここでゆっくりして、唐津で名護屋城址を散策し名物の呼子イカ等を食べていたため閉館時間までに間に合わず、更に平戸島で宿が取れなかったため、平戸の名物うちわ海老だけ食べて橋を戻り九州側の近くで宿泊しました。うちわ海老の“うちわ”という平らなイメージだけが先行し、店の人に“草履海老お願い”と言ってしまい、不思議な顔をされたのは今も良い思い出となっています。流石に徹夜の運転が応えたのか、布団に横になった途端に寝てしまいました。

2日目はまた平戸島に渡ります。平戸城は鉄筋コンクリートの模擬天守です。天守からの眺

めは素晴らしく平戸港が見渡せます。この後、佐世保まで移動して、名物の佐世保バーガー屋を2軒ほど巡って港で軍艦を眺めました。もっと色々な店を探したかったのですが、予定が押しているため、泣く泣く島原へと佐世保を後にしました。藩の大きさ不相応の城で、こうした城の築城賦役や過剰な年貢取立ても島原の乱の原因になったといえます。それだけあって立派な石垣と堀が見ることができました。ここの天守閣も再建されたものですが、天守閣の目の前まで車で行けるのが特徴的です。広くて子供が歩き回れますが、車がそれなりに来るので注意が必要です。島原からはフェリーが出ていて熊本まで直接アクセスできます。車でフェリーに乗ったのは初めての経験だったので新鮮でした。熊本城は全国的にも有名で、石垣普請の名手とされる加藤清正による直接の普請だけあって圧倒されるような石垣です（江戸時代に石垣も縄張りも改修されたようですが）。城郭群の範囲もかなり広く、すべてゆっくり見ようと思ったら1日かかりで見た方がいいと思います。宿泊施設も多く、馬刺しも食べてみたかったため2日目は熊本で早めに休憩としました。山形も馬刺しがありますが、この時食べた馬刺しもやわらかく癖のないおいしさで、また機会があれば是非食べたいものです。

3日目は城巡りが全然はかどっていないため、早朝に出発し阿蘇山を經由して九州横断の予定を立てました。阿蘇山火口に寄り道をして、“喘息の既往がある人はご遠慮ください”の看板を見落とし、風下に立った時に軽く呼吸苦を覚え、自分が喘息持ちであることを再認識させられました。とはいってもその後は発作が全くないので、最近は吸入器も持ち歩いていませんが…。その後大分で瀧廉太郎の荒城の月の岡城、府内城址を回りましたが、ちょっと駆け足で回ったため攻めるのが大変だっただろうなという疲労感と、お堀と門の印象しかありません。大分はざんぎ（鳥の唐揚げ）が有名ですが、行く店行く店全て休みで、城も含めて大分にはもう一度行きたいと思っております。開業医である忙しさもあってなかなか行く機会が見つからないのが現実です…。この日はこのまま南下して、父がよく言っていた宮崎シーガイ



アに宿泊をし、宮崎地鶏の炭火焼きを山盛り食べてみました。もともと味音痴なため塩味の濃い炭のついたこれは、未だにどこで食べても違いが分かりません。

4日目に鹿児島に向かいました。鹿児島城にて城よりも西郷隆盛が亡くなった城山に登り感慨深い気持ちになりました。この散策による汗と濃厚な鹿児島ラーメンで汗だくになりシャツを着替えなければならない羽目になりました。6月後半とはいえ南国鹿児島は暑かったです。この日、人吉にて一泊してゆっくりしようと思っていたのですが、家族みんな疲れがたまってきたため一気に福岡まで北上することにしました。ちなみに人吉城は川沿いにあり、公園もあるという今まで見た城とは一線を画す印象の城です。この日は高速道路で一気に福岡まで行き、大宰府で勉強祈願をしてホテルに向かいました。ダブルの部屋なのに、ホテルの人がやけに部屋をグレードアップすることを勧めてくるので、変だなと思っていたらどうやらシングルで仕方なく私だけ床で寝ました。ダブルベットという基準が無いものかと不思議に思った夜でした。

最終日はまた東京まで移動するため少し余裕をもって帰ることにして福岡を出ました。駆け足になって、後ろ髪を引かれる旅となりましたが、美味しいものをたくさん食べ、城巡りもでき、心残りもなく、子連れで出かけた割にはとても楽しい思い出となりました。ただ今度行く機会があるなら、1県ずつをゆっくり滞在したいものです。

特別寄稿

地霊の生みし人々 — 相良守峯（上） —

黒羽根整形外科 黒羽根 洋司

ドイツ文学を志す人間はもちろん、ドイツ医学主流の時代に学んだ医師たちが、必ずその恩恵を被った辞典がある。診療録がカルテで、患者のことをクランケと符牒の如く呼び合った時代、それは医学生必携の書であった。博友社の『独和辞典』である。その編纂者・相良守峯は鶴岡の人であった。

文字の海へ

東京帝国大学の助教授であった相良守峯が、木村謹治主任教授から辞典編集の依頼を受けたのは昭和12年のことである。それも期限つき、2年後が紀元二千六百年にあたるので、この祝祭にあわせて記念出版にしたい、という出版社の強い意向が入っていた。出版社では600ページぐらいの小辞典という目算らしかったが、ドイツ語を学ぶ対象が高等学校以上と限られた需要者向きには、そんな初級の本は要をなさない。相良はじっさい自分がドイツ語とぶつかってみて、語源のはっきりしない言葉はなかなかおぼえられなかった。

相良は従来の辞典の欠点を示し、学術的編集の意味を説き、千数百ページにわたる辞典出版を企画させた。

およそ辞典作りは、10数年かかるのが普通であるのに、指折り数えれば2年9か月しかない。これと取り組んでもついに出来上がらず消えてしまい、出版社もつぶれてしまうという例も少なくない。そんな過酷な状況で、あらゆる言葉を集め、言葉と向かい合いながら取捨選択していくという、気が遠くなるほどの根気と体力のいる仕事が始まった。

4月から6月末までにだいたいの構想を練り、語彙の選択をして、スタッフ陣をそろえ、カード書きに入った。執筆のしかたは助手によく説明したが、ここで困ったのが送り仮名の問題だった。まだ統一された当用漢字もできてい



ない時代、学者に相談すれば、どちらでもいいという。悩んだ挙句に、自分で送り仮名表をつくり、一覧にしてわかる基準をもうけた。壁にもう1枚の予定表と一緒に貼りつけ、だれが見てもわかるように配慮した。

仕事場は博友社の二階にあたえられていたので、助手は朝の十時から夜の十時まで交替でつめ、仕事をするようになる。相良も大学での講義が終わればまっすぐにそこへ出かけた。責任者である相良は収録する見出し語を選定し、いかに簡潔で、的確な言葉で説明するかに肝腦をしばる。何度も推敲を重ね、できるだけ字数を削っていく。大切なのは、実践と思考の飽くなき繰り返しであった。

スタッフとは毎日顔を突き合わせ、相談しながら仕事の統一をはかり、進行具合を予定表に書きこむ。だが、表はしばしば書きなおされ、実行が遅れると助手の数が増やされた。辞典はチームワークの結晶なのである。

原稿は半分以上進むと校正にとりかかるのだが、辞典の場合、この作業がまた厄介である。原稿とおなじ労力と時間を食うので、原稿執筆と校正のバランスをとるために、さらに人手が必要となってくる。助手の数を20人に増やして、カード執筆をあげさせ、校正を重ねた。予

定の期限は確実に迫っていた。

辞典はいうならば文字の約束ごとである。語釈の正確さと統一性が辞書づくり生命線であるから、一語たりともおろそかにできない。連日の仕事を終え、博友社の階段を下りると相良は文字の海から解放され、しばし呆然として力が抜けてくのかを感じていた。

昭和15年3月16日、2年9か月の予定をつないで、1600ページの『独和辞典』が完成した。辞書を編集する人々を描き、映画化もされた、三浦しをんの『舟を編む』にこんな一節がある。「俺たちは舟を編んだ。太古から未来へと綿々とつながるひとの魂を乗せ、豊穰なる言葉の大海をゆく舟を。」“俺たち”とはまるで相良守峯と、この辞典づくりに関わったすべての人たちのことを指すようだ。そして、『独和辞典』という舟は、いまでもドイツ語という大海原で見事な航跡を残している。

相良家の人びと

相良家ははるか先祖をたどれば、武田信玄の家来であった。信玄の子勝頼の没後、禄を離れ、守峯から遡ること十代目の祖先・相良守秋が庄内藩主忠勝に随伴して、この地に住むようになった。

先祖以来の直系は、守秋—守勝—守精—守政—守郷—守富—守約—守典—守一—守峯と続く。禄高は二百石から三百石、時の役職によっては四百石のこともあったようだ。第四代の守政は安永年間に鶴岡の町奉行をつとめたが、在任の数十年間は牢獄が空っぽであったという。治安がよく整い、罪人が一人もいなかったのが名奉行の評が高かった。相良家の傍流には、琴曲の名手がいったり、槍術の達人でありながら諧謔に富んだ随筆集をものにする風流人がいったり、この一族は文武に秀でた人物を輩出した。

祖父の守典は天保12(1841)年に生まれ、若いうちに兵学、とくに砲術修行のため、選ばれて安政2(1855)年に幕府の師範役であった江川太郎左衛門に入門した。一時は新徴組にはいったこともあったが、慶応3(1867)年、英式兵制の銃撃隊小隊長として維新戦争に従軍転戦した。明治の世の中になってからは山形県の

諸地方で群長をつとめ、山形師範学校や中学校の校長を歴任する。明治35(1902)年には引退し、鶴岡市家中新町の大督寺と百間堀との間の千二百坪ほどの土族屋敷を求めて隠居生活にはいった。大正7(1918)年、数え年82歳で亡くなった。

父の守一は時には青春の血おさえがたく、家を逃げだして東京へ向かったことも2度ほどあった。その都度途中でつかまって連れ戻されたりした。友人と共に「樺太漁業株式会社」なるものをつくって、自ら樺太へ渡ったこともあったが、典型的な土族の商法で失敗し、屋敷の半分を失うはめとなった。守峯に残る父の面影は、山野で鳥獣を狩ったり、海で魚を釣ったり、裏の畑で野菜や果物を栽培したり、雨天には漢籍を読んだり書をなしたり、という古風で非生産的な姿だけであった。

遺したものとえば、庄内浜で釣り上げた二尺六寸の大鯛の魚拓だけであった。この魚拓を巻物にして譲渡する際に、息子・守峯に垂れた言葉がある。「自分は大鯛をたった一匹釣るような男でしかなかったが、何も好んでこういうふうな人生になった訳でない。仕事を遊びだと思ひ直してやれば、もっと気楽な、もっと鷹揚な人生を生きられたかもしれない。お前には少なくとも仕事を仕事だと思ってそれしか考えられない男だけにはななって欲しくない」。

芥川龍之介によれば、「人生は落丁の多い書物に似ている」という。浮沈に満ちた前半生と無為な後半生からなる守一の人生もそのようなものだった。しかし、父が遺す言葉は、「相良守峯の一生」という書物の通奏低音となった。



相良守峯の父守一が庄内浜で釣った2尺6寸(約80センチ)のタイの魚拓 = 鶴岡市・致道博物館蔵

表 紙

「 秋 の 海 」

齋藤 慎

天候不順だった夏も終わり、秋の海になって来ました。海岸では海水浴客に変わり、いも煮会やシノコダイ釣り等の釣り客でにぎわいます。

編 集 後 記

今年の夏はラニーニャ現象のために冷夏であると言われていました。久しぶりの涼しい夏かと思いきや強力な台風の接近や各地で猛烈な豪雨に見舞われ、やはり異常気象の夏となりました。21世紀になり地球温暖化防止と再生エネルギーの使用、開発がさげばれています。確かに海水温の上昇による魚の分布が変わったり、熱帯性の昆虫の媒介する感染症が報告されたりとただならぬ気配を感じます。台風の強力化も日本の周囲の海水温の上昇が原因と言われます。日本には四季があり季節ごとに美しい景観が楽しめると思いますが、まるで春と秋が無くなってきたように感じます。このままではいけないと思えるところからの省エネルギーを心がけてはいますが、クーラーの効きが心地よく、冷たい飲み物を飲み、夜は遅くまで起きている生活を治せません。9月の声を聞き日本の秋を、鶴岡の秋をお月見や芋煮会、きのこ汁で楽しみたいと願っております。

(三科 武)



編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・齋藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1 - 34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27 - 1 TEL 22-0936 (代)